

# 観光兵庫Re : STARTの31日間

## <目次>

- 1 観光兵庫Re : STARTの31日間概要 . . . . . 1
- 2 ひょうごフィールドパビリオンの展開 . . . . . 3
- 3 「大阪・関西万博」1000日前記念シンポジウムの開催 . . . . . 1 3
- 4 第2回海上交通実証実験の実施 . . . . . 1 4
- 5 ワークーション知事室の実施 . . . . . 1 5

プレキャンペーン  
2022年夏

兵庫  
デスティネーション  
キャンペーン  
(2023年夏)

観光兵庫  
Re:STARTの  
31日間。

観光+地域振興

大阪・関西万博  
(2025年)

6/27



クルージング MICE の  
可能性を探る実証実  
験も実施

兵庫プレDC オープニングセレモニー



7/1

「WEST EXPRESS 銀河」出発式  
(大阪駅3番のりば)

兵庫プレDC 特別クルーズ



7/1~3

「シースピカ」クルーズ

7/9

「bohboh KOBE号」クルーズ

(いずれも、神戸港中突堤~あわじ交流の翼港)

ひょうごフィールドパビリオン



兵庫県内各地  
フィールドパビリオン

6/17~

ひょうごフィールドパビリオンの  
コンテンツとなるSDGs体験型地  
域プログラムの募集

1000日前イベントの実施



7/18

万博やフィールドパビリオンの  
機運醸成を図る開催1000日前  
イベントを県立美術館で。パネ  
ルディスカッションなどを実施

**兵庫デスティネーションキャンペーン関連****●兵庫プレDC オープニングセレモニー**

「WEST EXPRESS 銀河」出発式

日 時：2022年7月1日(金)10:26 発

場 所：大阪駅3番のりば

運行区間：大阪～(福知山線)～城崎温泉

運 行 日：2022年7月1日(金)～3日(日) ※1日1往復(計6本運行)

**●兵庫プレDC 特別クルーズ**

「シースピカ」

運航区間：神戸港中突堤～あわじ交流の翼港

運 航 日：2022年7月1日(金)～3日(日)

「bohboh KOBE号」

運航区間：神戸港中突堤～あわじ交流の翼港

運 航 日：2022年7月9日(土)

問い合わせ先：産業労働部観光局観光振興課 078-362-3838 (直通)
--

**大阪・関西万博関連****●海上交通実証実験の実施**

日時：2022年6月27日(月)

場所：HAT神戸～中突堤～あわじ交流の翼港

概要：クルージング MICE の可能性を探るため、2回目の実証実験を実施

※船上で伝統芸能の体験・鑑賞

**●ひょうごフィールドパビリオン募集開始**

日時：2022年6月17日(金)

場所：三木市(※募集初日に、地域の活動現場より記者会見を予定)

概要：ひょうごフィールドパビリオンのコンテンツとなる SDGs 体験型地域プログラムの募集を開始(※各地域で、説明会や意見交換会を開催予定)

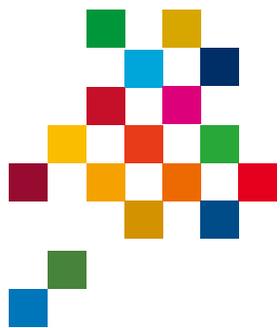
**●1000日前イベントの実施**

日時：2022年7月18日(月)

場所：兵庫県立美術館

概要：万博やフィールドパビリオンの機運醸成を図るため、万博開催の1000日前にイベントを実施

問い合わせ先：企画部万博推進課 078-362-9257 (直通)
-----------------------------------



# ひょうごフィールドパビリオンの展開

○趣意 ○テーマ ○展開イメージ

## SDGs 体験型地域プログラムの募集

令和4年6月17日



# 趣意

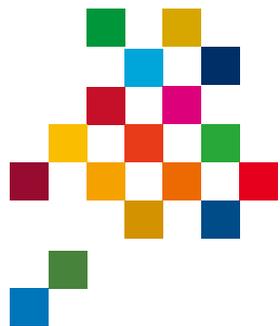
ひょうごフィールドパビリオンの  
展開について

持続可能でよりよい世界の実現に向け、世界共通の目標である SDGs の視点の重要性が増している。しかし、目標達成にあたっては自然災害や気候変動、急激に進む都市化など課題が山積している。

兵庫では、歴史も風土も異なる個性豊かな五国において、地域の人々が主体的に課題解決に取り組み、未来を切り拓いてきた。「震災からの創造的復興」、「人と環境にやさしい循環型農業」、「豊饒な大地や海に育まれた食材」、「挑戦を繰り返してきた地場産業」、「郷土の自然と暮らしの中で受け継がれてきた芸術文化」など、**地域を豊かにする取り組みには、世界が持続可能な発展を遂げていくための多くのヒントが秘められている。**

2025 年「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開催される大阪・関西万博は、こうした兵庫の取り組みを国内外に伝える大きなチャンスである。**地域の「活動の現場そのもの（フィールド）」を地域の人々が主体となって発信し、多くの人を誘い、見て、学び、体験していただく「ひょうごフィールドパビリオン」を全県で展開する。**

交流を生み出す取り組みを通じて、兵庫各地域に住まう人々が、自らの取り組みを再評価し、次代を担う人材を育み、兵庫で暮らすこと、生きることの誇りへとつなげ、「躍動する兵庫」を切り拓いていく。



テーマ

ひょうごフィールドパビリオンの  
展開について

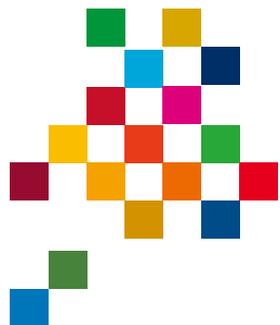
# Our Field, Our SDGs

## 私たちのフィールド、私たちのSDGs

兵庫の「各地域」として、またフィールドパビリオンの「活動の現場」としての「フィールド」と、「いのち」や「未来」につながる意味を含んだ「SDGs」とを、「Our（私たちの）」で結びつけ、それぞれの立場の人が、自分ごととしての「ゴール」を模索し、次のステップにつなげていくメッセージを込めた。

※「Our」は、自分たちにとって身近な主語へと解釈が可能

「僕たちの」「俺たちの」「ワシらの」「あたしらの」「ウチらの」「我らチームの」「仲間たちの」etc.



# 展開イメージ

ひょうごフィールドパビリオンの  
展開について

地域を豊かにするひょうごの各地域での取り組みには  
世界が持続可能な発展を遂げる多くのヒントがある

**SDGs 体験型地域プログラムを募集**  
基準を満たすものを認定  
プレミアム・プログラムを選定

県の  
アクション

誘客プログラムの  
魅力向上をサポート

国内外に  
プロモーション

国内行事で利用促進  
プレッシャー等で活用

## 認定プログラムを「ひょうごフィールドパビリオン」として展開

- ・ 人類共通の諸課題を解決するモデルを兵庫各地域の取り組み現場で示す
- ・ 地域の様々な取り組みの価値を地域の人々自身が世界に発信し、地域の誇りにつなげる
- ・ 世界から兵庫各地域へ人の流れを生み、継続できる仕組みを確立し、人々の兵庫への関わりを増やしていく

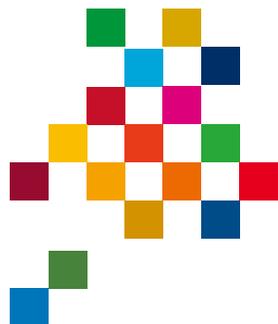
県の  
アクション

大阪・関西万博  
兵庫棟（仮称）で情報発信

県立美術館ギャラリー棟等で  
情報発信

県内各地域のコンテンツを  
積極的に情報発信

## 「躍動する兵庫」を切り拓く



# SDGs 体験型地域プログラムの募集

## <募集内容>

SDGs を推進し、地域や社会の諸課題の解決に向けて、各地域で特色ある資源を生かした体験型・周遊滞在型プログラム、またはその素材となり得るプログラム

## <応募者（事業者・団体等）の要件>

- 県内において SDGs を推進する体験型・周遊滞在型のプログラムを提供する者、または提供する可能性のある者
- 個人や単独での事業者や団体等のほか、複数の事業者や団体等でのグループも可

## <認定方法>

- 有識者等による認定委員会の審議の上、基準を満たすプログラムを『SDGs 体験型地域プログラム』として認定
- 特に『各地域の風土・文化との親和性』や『事業の持続可能性』の観点から、地域の核となると考えられるものをプレミアム・プログラムとして選定（現時点では10件程度を想定）
- 『今後、より地域を豊かにする可能性』が高いと期待できるものは、認定基準を満たすために、協働して磨き上げ

## <募集期間等>

**【強化募集期間】 令和4年6月17日（金）～ 12月16日（金）**

※令和5年2月末頃通知を予定

※強化期間終了後も、大阪・関西万博開始まで随時募集を行う

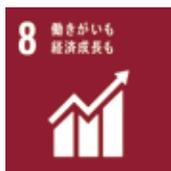


# プログラムの視点（例示）

## SDGs の視点～山田錦～



県立農林水産技術総合センター酒米試験地で山田錦の品質を保持するシステムを開発。持続可能な地域生産システムの構築を行っている。



山田錦とその酒米を利用した酒造りについて学ぶことにより、地域の文化や歴史を踏まえた産品に誇りをもち、関わる人々の働きがいの向上に資する。



米づくりに適した土壌等を大事にし、ブランド力の長期的な継続とさらなる向上を目指す。村米制度に基づいた酒造業者との信頼関係を大切に、持続可能な事業の取り組みを維持している。



県立農林水産技術総合センター酒米試験地で山田錦の品質を保持するシステムを開発。持続可能な地域生産システムの構築を行っている。



生産量日本一を誇る山田錦を活用し、山田錦まつりや山田錦乾杯まつり、山田錦田植え体験等、官民連携しながら山田錦のPR等に努めている。

## 旅としての楽しみ方

【見る・聞く・体験する】

### 山田錦の語り部の話を聞く（播磨）

- 語り部が山田錦の知識、技術やお米づくりに込めた思いなどを解説
- 山田錦の館を訪問し、酒米ミュージアムで 歴史、風土、栽培などを学ぶ
- 山田錦の田植えや稲刈りを体験



### 山田錦の酒造りを見る（摂津）

- 灘五郷の酒蔵を訪問し、山田錦を用いた 酒造現場を見学
- 山田錦・宮水を使い杜氏が仕込む灘五郷の日本酒づくりを学ぶ
- 日本酒のテイスティング



【+ a】

### 有馬温泉で旅館に泊まる（摂津）

- 温泉街をぶらりとまちあるき
- 神戸ビーフと山田錦の日本酒・大吟醸で乾杯



## ■ひょうごフィールドパビリオン・コンテンツ候補の事例

### 【但馬牛】香美町小代区

#### ○ 概要

明治初期、牛肉を食べる文化が広がると、和牛を枝肉量の多い体格のいい牛にしようと外国種のおス牛を交配に使うようになったが、良質な肉牛は生まれなかった。その中で、香美町小代区で唯一4頭だけ黒毛和牛の純血種が残る。現在、全国の黒毛和牛の繁殖メス牛は、99.9%がそのうちの1頭の雄牛「田尻号」を祖先にもつと言われている。

元々田畑を耕すために飼われていた但馬牛は、小柄で小回りがきき、よく働く一方、おとなしい性格である。田植えの時期が終わると、昼間は集落から離れた山の上の放牧場で飼われていた。夏の間、柔らかくて栄養豊富な野草や薬草を食べ、毎日険しい山を行き来することで、足腰の強い健康で丈夫な牛となった。冬には、栄養が少なく堅い稲わらや干し草を与えられ、粗食にも耐えてきた。こうして鍛えられたしなやかな筋肉と、寒さから身を守るための細かな脂肪が入り、霜降り状態の肉質ができる。

兵庫県産の黒毛和種は、但馬牛（たじまうし）とよばれ、兵庫県が指定する種雄牛（県内に12頭）のみを歴代に亘り交配し誕生した牛である。この但馬牛（たじまうし）は、食肉である「但馬牛（たじまぎゅう）」のほか、霜降り度合いや歩留まりなど一定の基準を満たしたものを、良質な牛肉の代表である神戸牛、神戸ビーフとして認定している。

#### ○ ひょうごフィールドパビリオンの視点

山間地域の農耕作業において、大切にされてきた但馬牛と一緒に歩んできた暮らしぶりを、住民自らが案内し、訪問者に伝え、体験することにより、他地域にはない特徴をもった地域の魅力を発見し、その地域で暮らすことの誇りへとつなげている。



▲人の生活とともにある但馬牛



▲牛の神様をお祀りする大日堂



▲かつて牛も耕作したうへ山の棚田



▲県立但馬牧場公園（但馬牛博物館）

## 【アイガモ農法】新温泉町

### ○ 概要

本来、自然界に存在しない除草剤、殺虫剤、殺菌剤、化学肥料などは、農業の生産性を上げてきたが、環境に対しては大きな負荷を与えている。そのため、環境に優しい農業が本質的に持続可能な農業であるとの観点から、自然循環を継続することが大切であり、そのために、アイガモを用いた稲作を行い、捨てるもののない農業の実践に取り組んでいる。

アイガモ農法では、稲作の開始とともに子どものアイガモを放飼する。アイガモは、雑草や害虫を餌として食し、その排泄物が稲の養分となり、化学肥料や農薬を使うことなく病虫害の低減を図ることができる。また、アイガモが泳ぐことにより土が攪拌され、稲の根を刺激して肥料分の吸収が良くなるなど、稲穂の成長を促進する効果がある。アイガモの育成に当たっては、野菜くずを餌として利用するなど資源を再利用するほか、稲作の終了後は、ヌカやワラなどを田に還し、田の中の生態系を維持するとともに、成長したアイガモを鴨肉として食し、余すところなく活用している。

アイガモ以外にも、発酵資材、木酢液、酢などの自然資材を利用するほか、大豆、ねぎの無農薬栽培の実践や浜坂の地形を活かした再生可能エネルギーの活用にも取り組む。

### ○ ひょうごフィールドパビリオンの視点

「捨てるもののない農業」「循環する農業」をアイガモ農法を中心に実践し、それを体験する場を提供することにより、持続可能な農業に人を誘い、そのあり方を見て、学び、体験することができる。



▲放飼されたあいがもの子



▲あいがも農法で育った稲穂



▲米ぬか、鴨の糞などを混ぜた堆肥



▲鴨舎を案内するあいがも農法の農家

(※鴨舎以外は、オーガニックファーム たにぐち HP より)

## 【播州織】北播磨地域

### ○ 概要

播州織は、寛政4（1792）年に帰郷した飛田安兵衛が西陣織で習得した技術を生かし、織物を作り始めたことに始まる。西脇を中心とする播磨地域では、昔から温暖な気候を生かした綿花栽培が行われ、各家庭において自給自足で衣類が作られていた。また、加古川・杉原川・野間川など、染色業に適した軟水が豊富で、藍染を中心とした植物染料を用いた織物の生産が行われていた。これらを背景に、織物業が発展してきた。

播州織の最大の特徴は、糸を先に染め、染め上った糸で柄を織る「先染織物」という手法である。たて糸専用のビーム染色と、たて糸・よこ糸の染色に用いられるチーズ染色の2種類の染色方法がある。薄手の生地を得意として、様々な色の糸を使用して織り上げることにより、豊かな色彩を持った変化に富んだ布ができる。自然な風合い、豊かな色彩、肌触りの良さが特徴であり、世界でも高く評価され、様々な製品に加工されている。糸染め、機織り、デザイナーによる製品化、販売までが一貫してでき、地域で連携しながら持続可能なまちづくりに取り組んでいる。

### ○ ひょうごフィールドパビリオンの視点

地域の特徴を活かして発展してきた播州織を、地域全体として支え、情報発信するとともに、オープンファクトリーなどで現場そのものを体験できる仕組みづくりを検討している。また、デザイナーなど若い人材を惹きつける魅力づくりを行い、継続的な発展を続けるチャレンジを続けている。



▲加工処理効果のデモ



▲コワーキングスペース「CONCENT」



▲播州織が購入できる西脇情報未来館 21



▲播州織工房館での機織りの実演

## SDGs : 持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。

「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標と169のターゲット、231の指標が決められている。

### <17の国際目標>



**目標1 [貧困]**  
あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる



**目標2 [飢餓]**  
飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する



**目標3 [保健]**  
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する



**目標4 [教育]**  
すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する



**目標5 [ジェンダー]**  
ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う



**目標6 [水・衛生]**  
すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する



**目標7 [エネルギー]**  
すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する



**目標8 [経済成長と雇用]**  
包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用 (ディーセント・ワーク) を促進する



**目標9 [インフラ、産業化、イノベーション]**  
強靱 (レジリエント) なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る



**目標10 [不平等]**  
国内及び各国家間の不平等を是正する



**目標11 [持続可能な都市]**  
包摂的で安全かつ強靱 (レジリエント) で持続可能な都市及び人間居住を実現する



**目標12 [持続可能な消費と生産]**  
持続可能な消費生産形態を確保する



**目標13 [気候変動]**  
気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる



**目標14 [海洋資源]**  
持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する



**目標15 [陸上資源]**  
陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する



**目標16 [平和]**  
持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する



**目標17 [実施手段]**  
持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

# 「大阪・関西万博」1000日前 記念シンポジウムの開催

作成年月日	令和4年6月16日
作成部課室名	企画部万博推進室万博推進課

2025年に開催予定の「大阪・関西万博」は、国内外から約2,800万人の来場者が見込まれるビッグイベント。

開幕まで3年を切り、**1000日前**にあたる7月18日に、万博に向けた**兵庫の取組をPR**するとともに、万博の機運醸成を目的としたイベントを実施します。

■日時 令和4年**7/18**(月・祝)14:00~16:00

■場所 兵庫県立美術館ギャラリー棟1階ミュージアムホール  
(神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1(HAT神戸内))

■募集人数 120名(先着順) ※定員になり次第締切り

■料金 無料

※ 当日の内容は、後日オンライン配信する予定



## ■プログラム(予定)

(1) 基調講演:ひょうごフィールドパビリオンの展開  
~万博が生み出す活力を取り込むための兵庫の戦略~  
(兵庫県知事 齋藤元彦)

(2) パネルディスカッション  
〔テーマ〕フィールドパビリオンの展開による地域活性化  
コーディネーター:橋爪紳也(大阪公立大学研究推進機構特別教授)  
パネリスト:齋藤元彦(兵庫県知事)

石川路子(甲南大学学長補佐/社会連携機構長/経済学部教授)

上村敏之(関西学院大学経済学部教授)

平櫛 武(キタイ設計(株)事業開発本部グループリーダー)

## ◆地域の活動状況報告

谷口正友(農事組合法人アイガモの谷口代表理事(新温泉町))

田中誠貴(田中一之刃物製作所(三木市))

## ■参加申込

申し込みフォームよりお申し込みください。

【URL】<https://forms.gle/S5J15oG73rifVURt6>

【申込内容】お名前/メールアドレス/ご連絡先

【お問合せ】大阪・関西万博1000日前記念シンポジウム運営事務局

TEL 078-341-2567 mail banpaku@kobe-j.co.jp



問合せ先:  
企画部万博推進課  
TEL:078-362-9257

## 「記念シンポジウム」の開催

万博を契機に創出される活力を兵庫に取り込むため、県では、県土全体をパビリオンに見立て、SDGsを体現する地域の活動現場を国内外の多くの方に見て、学び、体験していただく「ひょうごフィールドパビリオン」を展開していきます。

開幕まで3年を切り、準備を本格化させていくなか、地域で活動される方をはじめ、各分野の専門家が一堂に会し、**フィールドパビリオンの展開による地域活性化**についてシンポジウムを開催します。

## 「空飛ぶクルマ」機体の特別展示も同時開催！

新たなモビリティとして期待される「空飛ぶクルマ」の機体(有人試験機「SD-03」)の特別展示を、(株)SkyDriveの協力を得て、同時開催。



提供:(株)SkyDrive

■場所 県立美術館ギャラリー棟  
「アトリエ1」(ミュージアムホール隣)

# 海上交通実証実験の実施

作成年月日	令和4年6月16日
作成部室課名	企画部万博推進室万博推進課

- **第2回の実証実験**として、大阪・関西万博の開催時に兵庫のゲートウェイとなるHAT神戸から、あわじ交流の翼港へ運航。淡路島までの距離感の把握や船上コンテンツの実施など、**海上交通の新たな形を探る**
- 船上では、①「西宮能楽堂」による伝統芸能「能」の体験・鑑賞と、②フィールドパビリオンの枠組みを検討する委員と淡路島内で活動している「淡路ラボ」との意見交換を実施  
 西宮能楽堂:能を通じて、日本の伝統芸術や文化を世界に発信する活動を実施。本格的な能公演だけでなく初心者向けの公演や体験教室も実施  
 淡路ラボ:淡路島内で、地元企業や島外の学生等をつなぎ、共に地域を盛り上げるプロジェクトを創出・支援。2021年1月、万博の共創パートナーに登録
- 淡路島においては、淡路ラボの活動現場の視察と、農業を通じたSDGsの取組を行っている「Awaji Nature Lab & Resort」との意見交換を、淡路景観園芸学校で実施

**実施日**

令和4年6月27日(月) ※HAT神戸を9時30分出港予定

**行程**

⑥淡路景観園芸学校  
Awaji Nature Lab & Resort、淡路ラボとの意見交換

⑤Awaji Nature Lab & Resort  
農業を通じたSDGsの取組視察と昼食

④千年一酒造  
淡路ラボの学生の活動現場を視察



問い合わせ先  
企画部万博推進室万博推進課  
TEL:078-362-4217

作成年月日	令和4年6月16日
作成部局	総務部秘書広報室

# 「日帰り ワークーション知事室」を実施します！

テーマ：山田錦のテロワール

日時：6月17日（金）

場所：三木市・加東市



# 6/17(金) ワークーション知事室 行程

10:30	～	11:30	山田錦生産農家 (三木市)	・「フィールドパビリオン」コンテンツ募集記者会見・田植え体験
				移動 10分
11:30	～	13:00	山田錦の館 (三木市)	・昼食及びフィールドパビリオン参加者との意見交換
13:00	～	14:20	〃	・リモート協議 ・視察・意見交換 (山田錦の館)
				移動 30分
15:00	～	15:30	稲見酒造 (三木市)	・視察及び意見交換 (稲見酒造株式会社)
				移動 20分
16:00	～	17:00	酒米研究交流館 (加東市)	・視察 (酒米研究交流館) ・農業大 学校学生との懇談
17:00	～	17:30		・取材対応

(問い合わせ先)総務部秘書広報室秘書課 078-362-3007